

イベントレポート

ゆきとじいじいの札幌オリエンテーリング紀行

武石雄市



ゆきは山だって駆けて登るんだよ。

で到着した。鈴木氏は今年もJRの青春18利用のようだ。運営者たちの車も続々通過するような時間になった。変な二人連れを目ざとく見つけて声をかけてくれたのは酒井佳子氏（札幌農学校・SKI O）や20年ぶりに再会した高畑政敏氏外懐かしい面々があった。

Park O Tour Hokkaido 第3戦

昨年から活動再会した北海道オリエンテーリング協会の今年度メイン事業は、パークOのようだ。

5月から10月まで全5戦のツアーで、今日は第3戦。

爺爺のスタート時間は指定されていたが、ゆきは当日参加扱いで、午前中なら準備次第で希望の時間にスタートできる。それなら、爺爺がゴールしてから申し込むことにして、ゆきはカメラマンになって爺爺の雄姿を写すことになった。



爺爺（雄市）のゴールパンチ（ゆきカメラマン）

はじめに

夏休みになったら、ゆき（幸・孫・小1）とじいじい（・雄市・63歳）はオリエンテーリングの旅に出ることを、前から約束していた。

春先頃までは、本気でオーリンゲン（スウェーデン）に行くつもりで居たが、6歳のゆきをチャイルドクラスとはいえ、個人クラスに参加させると言葉がわからない異国ゆえ、爺爺のオリエンテーリングは犠牲にしなければならぬだろう。

あまりにももったいことであるので、海外にはゆきを連れて行かないことに決心し、爺爺は、幸の夏休み前にFIN5（7/15 出発、7/25 帰国）だけ参加して帰国することにした。

モエレ沼

「じいじい、門が開いたよ」

7時だった。フェリーと車で熟睡したゆきは、眼がさめて警備員が門の鍵をあけるのを見ていたのだ。

モエレ沼は、はるか昔の豊平川？残存湖でU字型に残り、広い中島部分を芸術家イサム・ノグチ氏のプロデュースで遺作の総合公園として長期間の工事中であり、湿原の中にピラミッドをイメージさせる山が出来上がり、更にもう一つ山を構築中であり、完成は平成16年とか。

開門したので入場は出来たが、早すぎて案内板一つ見当たらない。とりあえずは朝食にしようと、水の使えるところを探すことにしたが、橋を渡ってすぐ左手の管理棟外に水道の蛇口を見つけた。レトルトのご飯とカレーを温め食べ始めたら、ジョギングしたり散歩をしたり、市民の利用者が結構行き交い始めた。

市民「ごはんおいしそうだね」

ゆき「うん、カレーライスおいしいよ」

北大大会常連の鈴木健夫氏（京葉OLC）が始発バス

ゆきのスタートは、小学生クラスの最後であった。

今度は、爺爺がカメラマンになって真剣に走るゆきの姿を追っかけることにした。

地図の正置もまだわからないが、コンパスを持っているなければオリエンテーリングは出来ないと思っている。コントロールでパンチしたあと正置をしてやると、祖母（ケイ子）や両親とトリムに参加して身につけているのか、とにかく道を探して走り出す。早くも典型的な日本人のチャイルドオリエンティアに苦笑が出る。

Eカードのパンチも様になっているし、とにかく走らなければならないことを身につけているので、学校で先生や友達にオリエンテーリングは走ることだと認識をさせる小さな指導員として、これは伸ばすべきだろう。

会場に着いたとき、見晴らしの良い山だから行っておいでと、鈴木氏（京葉OLC）から言われてもいやだと言っていた40mほどの山の直登も駆けて登ったのにはうれしい驚きを覚えた爺爺でした。

コントロール近くでうろうろするのは大人と同じで爺爺は自分を見る思いでした。



コントロールをみつけて番号を確認し、Eパンチ。しっかり押してバックアップラベルまで確実に。

パークO北海道第3戦成績 (道協会発表)

MA

1	Alaric FISH	19:11
2	船津 陽平	20:55
3	山本 賀彦	21:38
4	根岸 典央	21:55
5	鹿内 靖友	22:22
6	熊谷 智之	23:38



MAで入賞 6名の面々

WA

1	植野 由香	26:00
2	井上アヤ乃	26:03
3	加藤 真理	27:14

OA

1	城森 博幸	22:14
2	小泉 辰喜	22:50
3	山崎 修一	24:40

B

1	田口 克幸	21:18
2	落合 千鶴	22:04

3 長谷川博之 26:41

C

1	渡辺 幸	27:00
2	町井 瑞希	28:04
3	菅野 裕介	48:42

N

1	佐川 能人	19:06
2	高橋 英知	27:45
3	武田 豊	36:15

G

1	水野 統宏	37:54
2	渡部 真弓	42:04
3	長岡 寛人	52:20

Relay (3人) M

1	ネギーWorld.com	54:00
	泉川大輔 19:17、古川裕也 17:29、鹿内靖友 17:14	
2	いわてだいがく	57:12
	熊谷智之 17:05、千田裕介 22:04、平井幹久 18:03	
3	インターナショナル	63:05
	根岸 19:14、城山 28:57、FISH Alaric 14:54	

MW

1 東北大 OLC (宮内、井上、船津) 53:18

Open (参考) (山本氏が1 & 3走)

OLP 兵庫 (山本、城森、山本) 51:28

Park O Tour Hokkaido の開催目的は

前の文において少し触れましたが、十数年前までは札幌クラブと連携して活発に活動していた北海道協会が行政の助成金打ち切りから、組織の改組も活性化に繋がらず、地理的条件も不利で活動が全国的以下に低迷していました。

平成元年の東日本大会は、北海道協会が一度開催を引き受けてから開催断念に追い込まれて返上し、永い？東日本の歴史で唯一開催空白年となった経緯があります。

そんな同協会の建て直しのため、北海道在住の若手を中心とした有志が、知恵を絞って特に札幌市内の広い都市公園の特徴を活かした、市民へのオリエンテーリング普及アピールを行っている、同協会として活性化活動の最大事業なのです。

昨年以來、道協会の若手メンバーには北東ブロックに開催割り当てがある次期東日本大会の開催引き受けを北大クラブの協力を得られれば可能ではないかと打診しているのですが、答えは慎重・消極的で JOA 主催大会の開催には、しばらく時間がかかるようです。

爺爺の独り言

(山形県の11年開催も冷や汗もんだったが、良く開催したもんだ)

ともあれ、内地(青森以南の日本)からの参加者が見込めない地理的条件の中で、初心者と市民普及のため立ち上がった道協会の立場を、多くのオリエンテアに理解を求めため、敢えてここに触れておきます。

第3戦まで終了した「パークO北海道ツアー」は、次の予定が組まれています。

当日受付もしています。札幌出張の方はトリムとシューズを携行して受付に顔を出すと、きっと歓迎してくれること間違いありません。

第4戦 9月10日(日) 札幌市北区百合が原公園

第5戦 10月1日(日) 札幌市中央区中島公園

札幌観光

モエレ沼を後にした二人は、新装なった大倉山ジャンプ台の上にリフトで登り、展望台から札幌を見下ろした。

にわか雨の後で煙っていたが、大通りでみんながビールを飲んでる様子も真下に見えたり、さっきまで水遊びをしたモエレ沼も遠くに見えた。でっかいジャンプ台を見ていたら、酒井きよじおじさん（杏友会）と会ったが、なんだか小さく見えました。

7月30日、北大大会

会場：石山中学校

地図：「罨の里」リメイク「切羽溪谷」15000

約30年前に、爺爺がオリエンテーリングを始めた頃札幌市が主催した大会に参加した思い出がよみがえる。ストックブックを探せば古いパーマメント地図があるはずだ。昔は、近くに「豊羽鉦山」があった。

爺爺と幸は、事前にM35AとNクラス申し込みはしてあるが、熊笹が大人の背丈以上もあり、6歳のゆきには一人では無理と判断、本部に行って二人いっしょのGクラスに変更する。どうやら、Nとコースが同一らしいのでゆきのスタート時間はそれを希望したら認めてくれた。

会場・スタート地区では、プログラムで承知はしていたが、今夏の海外参加組や北大OB（札幌農学校）そして夏の北大大会には常連の面々が、今年の暑さをスタート前の話題にしていた。2分前に修正個所の地図を見せていたが、90%以上のグリーンが印象に残る。（後で見直したら、イエローにオーバープリントしたグリーンが強いので「民家の敷地等」が通行困難のグリーンベタに見えるのだ）

N/Gのコントロールは7個、道以外に3個の点状特徴物にセットしていたが、232の炭焼釜跡は子供には厳しいと感じました。事実、ゆきより走力・体力のある大人の参加者が時間のかかっていることはそれを証明する。

ゆきは、時々じいじの助けを借りたが、常に爺爺の前を走り1位になった。子供ながらに、がんばれば結果がついてくることを体験した、ゆきの夏休みの一日でした。

MAP「切羽溪谷」は、前述の色に加えて等高線が怪しい、意味がなく切れていたり計曲線を忘れてたり、閉鎖したり、使われない記号も見られた。アンケートに書いたが、部員も少なからず居る様だし今後に期待したい。



表彰式では、しっかりと「気を付け」の姿勢で欲しかったメダルと賞状をもらいました。

第23回北大大会成績速報

M21A (8,650m、480m) 48名	
1	野田 昇作 27 湘南ボーイ OLC 1:22:39
2	紺野 俊介 22 東西 OLK 1:28:07
3	内田 恵司 27 しばた医院 1:29:11
4	橋本 裕志 35 OLP 兵庫 1:34:14
5	西村 秀生 1:36:33
6	大塚 友一 22 東西 OLK 1:36:49



左より内田恵司、野田昇作、紺野俊介

W21A (6,000m、310m) 9名	
1	酒井 佳子 29 札幌農学校 1:23:22
2	河野みどり 26 ストークランドF 1:26:35
3	井上アヤ乃 22 東北大OLC 1:39:12
4	木植 早生 40 地図と森の会 1:58:51
5	常広 陽子 23 札幌農学校 2:01:16
6	阿部 真弓 30 杏友会 2:02:47



酒井佳子、河野みどり

酒井佳子のコメント

「北大卒の私にとって、北大大会は年中行事の一つ。毎年、藪と虫と非情な登距離（今年は5%を越えた）に苦しめられるが、まあ、それもご愛嬌。それでも今年のトレインはほぼ全面、腰までのクマザサに覆われ、コントロールも一部でササに埋もれた状態だった。この植生に慣れていない方々は大変だったと思う。

さてレース。2位の河野さんとルートを比較し、自分のいい加減さに愕然とした。男子はウィニングを切っていたのに、私は10分ほどオーバーし、情けない。毎年のように謙虚にさせられる大会である。」

M21AS			16名	
1	佐々木直樹	40	クラブすすきの	1:16:09
2	武田 知己	30	札幌農学校	1:22:56
3	鎌田 英則	23	チーム放射線化学	1:24:24
M35A			12名	
1	小泉 辰喜	36	権坂OL愛	0:57:39
2	城森 博幸	41	OLP兵庫	0:59:25
3	佐藤 政明	55	大府市	1:17:27
M20A			4名	
1	濱本 雅史	20	筑波大OL愛好会	1:06:09
2	北原 学	20	東北大OLC	1:14:16
3	上野 利之	22	北大ポブスレイブ	1:33:02
W20A			2名	
1	坂崎 幸美	19	青森りんご	2:23:50



M20Aの濱本雅史と北原学 W20Aの坂崎幸美

MB			15名	
1	串田 光隆	33	札幌農学校	0:46:01
2	田口 克幸	41	札幌農学校	1:00:56
3	寺井 靖雄	58		1:12:55
WB			4名	
1	植野 由香	20	道教育大旭川校	0:47:07
2	小原 文	24	ちずや	0:52:13
3	石田 桂子	31	札幌農学校	0:54:30



Foot 初参加の植野由香 N&G ベストタイムの幸

植野由香のコメント (SKI-Oのホープ)

「久しぶりの北海道なのに暑かったですよ。旭川は盆地なのでもっと暑いですよ。でも、北大大会はそんな暑さも吹っ飛ばすほど楽しめました。

私はWBクラスに出場しました。WAに出るには不安で、まだ少し早いと思ったからです。競技後、WAの地図を見せていただいて『出なくて正解だったな』と感じました。それは、デフの記号が解らないという点とまだ読図が完全でないという点から感じました。

WBは日本語の位置説明が併記してあり解り易かった。

私にとって難しかった点はルート選択でした。地図を見る限りでは何処を通れば一番いいか分かるのですが、そのルートを正確に走ることがまだ出来ていません。

その為、目標物のないところから目標物のないところに行くことは今の私にとって困難なことです。

私は、今回の大会の前に直進の練習をしました。その技術はたくさん活用できたのですが、やはり正確に進むことが出来ませんでした。これからの課題としては、コンパスを使いこなして正確なルートを進めるようになることです。適当って危ないですね！(笑)

北大のみなさん、ありがとうございました。そして、酒井さん、幸くん優勝おめでとうございます！」

N			6名	
1	星野 由雄	70	札幌OLC	0:55:53
2	安本 裕樹	25	北大ポブスレイブ	0:59:15
3	豊原 洋蔵	79		1:31:04
G			5名	
1	渡辺 幸	6	米沢市愛宕小学校	0:46:55
2	安平 睦基	25	剣道部	1:03:32
3	坂井 洋平	25	札幌農学校	1:12:25

ナイト0(7月31日)

野宿するはずのゆきと爺爺は、30日突如知人の豪邸(爺爺が仲人した)に宿泊することになり、ゆきにはお兄さん、お姉さんが子供たちも居てゆきは大満足。

それに、今日(31日)は近くの小樽ドリームビーチで水遊びやボート遊び、爺爺は胸まで水に浸かりながらアサリや蟹を捕った。

17時からの北大ナイト0に飛び込み参加して、WC選手の奥村理也(ウルトラクラブ)氏と北大生の中谷彰吾氏と3人グループでクイズを解いて回ったが、ゆきには疲れて眠かったし、お腹も空いて難しかった。

(二人のお兄ちゃんたち、ありがとう)

ドリームビーチで捕ったアサリと蟹は、再びオートキャンプした十五島公園で味噌汁の出汁になった。

ファイナル

旅に慣れてきた幸と爺爺は、今の時期お花がいっぱいの山登りもしたかったが、今回はこの辺でお家に帰ることになった。

帰路、有珠山の噴煙を眺め、大沼にも寄ったが、夏休みだというのに観光客は少ない。札幌でも、そんなに多くの観光客とは思わなかった。今日は8月1日、函館の港祭りで「花火大会」がある。長男の家族と函館山に登り、夜は今年初めての花火大会を見物して、23:00発の超高速フェリー「ゆにこん」で青森港に上陸し、「ゆきとじいじいのオリエンテーリングの旅」はハッピーエンドとなった。

爺爺の独り言

「北欧のように、子供たちを一人でオリエンテーリングできるように、テープ誘導コースを作って楽しませたいなー」「来春5月の米沢大会は実現に努力しよう」と」

SKI-O の国際大会

今回の渡道目的の一つに、SKI O ジュニア選手の掘り起こしもあったが不発に終わりました。

次号に国内大会の募集要項を発表しますが、2001年のSKI-O国際大会は下記の通り予定されており、一部のブリテンも到着しております。

SKI-O研究会としては、イタリアのJWOCとWMOCに参加希望者の問い合わせに積極的に対応します。

特に、JWOC 選手には相当の助成金を予定しています。

● SKI-O マスターズとジュニア世界選手権

開催地：イタリア北部 Trentino

日程：

- 2月11日(日)到着・宿泊
- 12日(月)ロングディスタンス・マスターズ予選
- 13日(火)ショート・マスターズ予選
- 14日(水)ロング・JWOCとM決勝
- 15日(木)休日
- 16日(金)ショート・JWOCとマスターズ決勝
- 17日(土)リレー・JWOCと国際オープン
- 18日(日)出発

テレビン：標高1400~1700m

パンチ方式：Sport Ident 使用

参加費：細部宿泊日数により異なりますが、日本からの交通費を含めて20万~25万円を予定しています。

申込み：日本チーム一括して申し込みます・

締切り：2000年11月15日

選手資格： マスターズ選手は、35歳以上の男女で希望者は全員エントリーします。

ジュニア選手は、1982年1月1日以降誕生の男女で、希望者多数の場合は選考会を実施する。

問合せ先：〒999 3721 東根市東根乙66 10

武石方 日本SKI-O研究会

電話：0237 43 5137、Fax：0237 43 5106

携帯：090 9037 1814

E-mail:fwiz5800@mb.infoweb.ne.jp

SKI-O 2001WC

1月24~28日 オーストリア

1月20~29日 ブルガリア

2002WOC開催国であり、希望者には細部ブリテンのコピー送付します。(宛先記入した封筒と90円切って同封のこと)

2月26~28日 スウェーデン

3月6日~10日 フィンランド・ロバニエミ

(8日ロング、10日ショートディスタンス)

注：SKI-Oといえども、これ以上の高緯度で開催されることは無いと思われる。ロバニエミには、この時期SKI-O選手の城山朋子が留学滞在している予定。

3月11日~15日 ロシア

0-クリニックに参加して

落合志保子

7月22日から29日までスウェーデンで開かれたオーリンゲン・クリニックに参加した。これは、WWOPという団体を統轄しているペオが開いている講習会で、オーリンゲンに参加しながら毎日たくさんの講義を受けるものである。ペオはオリエンテーリングを世界に広げようという活動をしている人で、クリニックへも世界各国からオリエンティアを集めている。実際、ケニア、ユーゴスラビア、ギリシャ、ブラジル、イスラエルなどなど、「えっ、ここでもオリエンテーリングをやっているの?」という人たちがたくさん参加していた。

実は日本も毎年その要項はJOAに届いているが、クリニックの存在を知っている人は少ない。私もたまたま他の人から聞いて知り、安いしオーリンゲンのエントリーとか宿とかの心配はないし、有名な人が講師としてくれるらしい、おいしい話だということで参加を決めた。

講習は平均して一日3時間、内容はオリエンテーリングの技術、コースセッティングの仕方、地図調査、OLの普及、マウンテンバイク・スキー・パークなど多岐にわたる。講習は主に夜におこなわれ、昼間はオーリンゲンに参加するのである。最初は超ハードスケジュール!と思っていたが、意外にもそれほどきつなく急げ者の私でも乗り切れた。

講習の中で一番まじめに聞いていたのが元世界チャンピオン、ケント・オルソンの講義である。アタックでのミスを減らすために、練習では10キロくらいのコントロールピッキング(ポスト間を短くし、常にアタック、アタックと丁寧なオリエンテーリングをする練習)をすると良いなどという具体的な練習方法も学んだが、この10キロという距離は驚きだった。日本のナショナルチームでもコントロールピッキングをするが、せいぜい2キロから3キロ程度の短いものであった。

実際に、その後のデンマークチームの合宿に参加したとき、彼らもやはり距離の長いコントロールピッキングを練習としておこなっていた。北欧では当たり前の練習方法なのだ。また、最近では日本チームも世界選手権の前年に現地トレーニングを行うが、強いチームはたいてい世界選手権の前に3回ほど現地でトレーニングを行う。その時に、少しでも疑問を感じたら必ず解決しておくこと。と強く言われた。例えばルートチョイスで悩むとき、何回か両方を走りどちらが有効なのかを見極めておく。フランスでは10回の内、9回は直進の方が速かった、しかし残りの1回は道回りの方が速く、直進はリスクがあった。そうしたとき、本番の世界選手権では道回りを選んだそう。徹底して状況を分析するのである。はっきりとした目的意識がある。私ももう一度フィンランドで考えてオリエンテーリングをする必要性を感じた。

約一週間のクリニックに参加してみて、今回は余り私の方がうち解けることができず心から楽しかったとは言えないが、向学心旺盛の貧乏学生には是非参加してもらいたいクリニックだ。学生(とは限らないが)で固まってハードフロアで過ごすよりはるかに良い宿で、いろんな国の友人ができ、考えさせられる講習会を受け、オーリンゲンにまで参加できる。来年は是非もっと多くの日本人が参加しているんな世界に目を向けて欲しいと思う。